

2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年10月30日

上場会社名 相鉄ホールディングス株式会社 上場取引所 東
コード番号 9003 URL <https://www.sotetsu.co.jp>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）加藤 尊正
問合せ先責任者 （役職名）経営戦略室部長 （氏名）馬淵 貴裕 TEL 045-319-2043
半期報告書提出予定日 2025年11月13日 配当支払開始予定日 2025年12月1日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期中間期	144,907	△2.4	18,982	△13.2	17,356	△16.5	12,779	△16.2
2025年3月期中間期	148,466	19.4	21,862	67.1	20,782	65.1	15,253	70.5

（注）包括利益 2026年3月期中間期 11,939百万円（△20.8％） 2025年3月期中間期 15,068百万円（53.2％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	132.82	—
2025年3月期中間期	155.69	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年3月期中間期	758,145	187,748	24.8
2025年3月期	757,264	182,079	24.0

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 187,677百万円 2025年3月期 181,985百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	30.00	—	35.00	65.00
2026年3月期	—	30.00			
2026年3月期（予想）			—	35.00	65.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	312,000	6.8	35,300	△6.7	32,600	△6.4	22,500	0.4	234.45

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期中間期	98,145,499株	2025年3月期	98,145,499株
② 期末自己株式数	2026年3月期中間期	2,175,835株	2025年3月期	862,502株
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年3月期中間期	96,215,979株	2025年3月期中間期	97,972,406株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、上記の業績予想に関する事項につきましては、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当社グループの当中間連結会計期間の経営成績につきましては、ホテル業において好調な宿泊需要により増収・増益となったものの、不動産分譲業での販売戸数減少などにより、減収・減益となりました。

営業収益は1,449億7百万円(前年同期比2.4%減)となり、営業利益は189億8千2百万円(前年同期比13.2%減)、経常利益は173億5千6百万円(前年同期比16.5%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は127億7千9百万円(前年同期比16.2%減)を計上するにいたしました。

各セグメント別の状況は以下のとおりであります。

a. 運輸業

鉄道業におきましては、海老名駅改良工事の進捗に伴い、8月から中央2階改札口の供用を開始するとともに、中央1階改札口の移設を行い、お客様の利便性向上を図りました。また、引き続き、鶴ヶ峰駅付近連続立体交差工事を推進いたしました。さらに、さがみ野駅・かしわ台駅開業50周年記念イベントとして記念入場券セットの発売や、メモリアルトレイン「あつぎ号」乗車体験会を開催したほか、「SOTETSU LINE HISTORY TRAIN」の運転、「夏のそうにゃんスタンプラリー2025」の開催、相鉄線と相鉄バス全線が1日乗り放題となるデジタル乗車券「相鉄夏のワンデーパス(鉄道・バス全線)」の発売を行うなど、沿線の魅力向上に努めました。

バス業におきましては、綾瀬営業所の一部系統において、減便ダイヤを実施しておりましたが、6月より復便及び利便性の向上のため、ダイヤ改定を実施したほか、空港リムジンバス二俣川羽田線において、運賃を改定いたしました。また、相鉄グループの更なるイメージアップに寄与することを目指し、新しいカラーを用いた路線バスを9月より導入し、今後車両デザイン統一を進めてまいります。

以上の結果、運輸業全体の営業収益は225億9千6百万円(前年同期比4.1%増)、営業利益は36億6千6百万円(前年同期比29.5%増)となりました。

b. 流通業

スーパーマーケット業におきましては、7月に神奈川県藤沢市に「そうてつローゼンみろく寺店」を開業いたしました。同店は建て替え計画に伴い2023年11月に閉店し、再出店した店舗になります。同店においては、湘南地域の特産品やソウルフードを取り入れ、地場・地元の魅力を再発見できるような品揃えとし、お客様のニーズにお応えするとともに、地元の生産者を応援することで地域全体の活性化への貢献を目指しています。

その他流通業におきましても、顧客ニーズの変化に対応し収益力を強化するため、コンビニエンスストア事業において新規店舗「ファミリーマート ルミネ横浜/S店」の開業や既存店舗のリニューアルを行うなど、積極的な営業活動に努めました。

以上の結果、流通業全体の営業収益は482億9千万円(前年同期比4.5%増)、営業利益は1億6千7百万円(前年同期は営業損失3億7千2百万円)となりました。

c. 不動産業

不動産分譲業におきましては、横浜市神奈川区の「グレースシア横浜」、横浜市旭区の「グレースシア南万騎が原マックス」及び横浜市金沢区の「プライムパークス横浜並木 ザ・レジデンス」の集合住宅並びに横浜市泉区の「グレースシアライフ横浜ゆめが丘」、横浜市旭区の「グレースシアライフ横浜三ツ境」、横浜市旭区の「グレースシアライフ横浜希望ヶ丘」等の戸建住宅を中心に、集合住宅及び戸建住宅78戸を分譲いたしました。また、賃貸マンションの「グレースシアフィットいずみ野」の入居を開始しました。

不動産賃貸業におきましては、横浜駅きた西口鶴屋地区にある複合施設「THE YOKOHAMA FRONT」に隣接する交通広場や、はまレールウォーク(歩行者デッキ)にて「つるやちようアーバンフェスVol.3」を開催し、鶴屋地区のにぎわい創出や来街を促進しました。また、「THE YOKOHAMA FRONT」の上層階にある、事業共創施設「Vlag yokohama(フラグヨコハマ)」では開業1周年を記念し、トークセッションや1日利用体験等の様々なイベントを実施しました。同様に、「ゆめが丘ソラトス」では開業1周年記念イベント「ゆめが丘ソラトス 1st Anniversary」を開催し、お子様やご家族で楽しめる様々な内容の実施により、集客力及び収益力の向上に努めました。

以上の結果、不動産業全体の営業収益は305億3千4百万円(前年同期比27.0%減)、営業利益は61億9千2百万円(前年同期比51.7%減)となりました。

d. ホテル業

ホテル業におきましては、「横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ」において、花火大会やTICAD（アフリカ開発会議）などのイベントに起因して需要が増加したほか、ホテル開業27周年を記念してホテル内の各レストランにおいて特別メニューを提供することで、集客力及び収益力の向上に努めました。宿泊特化型ホテルにおいては、相鉄フレッサイン長野上田駅前をリニューアルオープンし、収益力の向上を図りました。

以上の結果、ホテル業全体の営業収益は359億円（前年同期比15.6%増）、営業利益は78億9千3百万円（前年同期比44.1%増）となりました。

e. その他

ビルメンテナンス業におきましては、前年度に導入を開始したA I建物管理クラウドシステムの導入施設を拡大、自動清掃ロボットを使用する等、I C Tの積極的な活用による業務の効率化を推進いたしました。また、積極的な営業活動により新規物件及び既存物件における臨時業務の受注拡大を図るとともに、良質かつ安定したサービスの提供に努めました。

その他の各社におきましても、業績の向上を図るべく、積極的な営業活動に努めました。

以上の結果、その他全体の営業収益は138億9千8百万円（前年同期比4.1%増）、営業利益は13億1千1百万円（前年同期比5.5%増）となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産、負債、純資産の状況)

当中間連結会計期間末の総資産につきましては、棚卸資産の増加等により前連結会計年度末に比べて8億8千1百万円増加し、7,581億4千5百万円となりました。

負債は、未払金の減少等により47億8千7百万円減少し、5,703億9千7百万円となりました。なお、有利子負債の残高は、借入金・社債合わせまして4,252億7千5百万円となり、98億6百万円増加いたしました。

純資産は、親会社株主に帰属する中間純利益の計上等により56億6千8百万円増加し、1,877億4千8百万円となりました。なお、自己資本比率は24.8%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間連結会計期間の業績等を踏まえ、通期の連結業績予想につきましては、2025年7月31日に公表しました数値から変更しております。

主に不動産業で前回発表予想より減収が見込まれるものの、ホテル業で費用減が見込まれること等により、営業収益は3,120億円（前回予想比1.4%減）、営業利益は353億円（前回予想比0.6%増）、経常利益は326億円（前回予想比0.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は225億円（前回予想比5.6%増）を見込んでおります。

2026年3月期 通期連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	316,300	35,100	32,500	21,300	221.59
今回発表予想（B）	312,000	35,300	32,600	22,500	234.45
増減額（B－A）	△4,300	200	100	1,200	—
増減率（%）	△1.4	0.6	0.3	5.6	—
（ご参考）前期実績 （2025年3月期）	292,178	37,820	34,812	22,407	228.84

※業績予想につきましては、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,008	17,885
受取手形及び売掛金	15,942	14,941
営業投資有価証券	15,568	15,692
棚卸資産	79,531	85,757
その他	14,662	11,625
貸倒引当金	△30	△35
流動資産合計	141,683	145,866
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	212,031	209,435
機械装置及び運搬具(純額)	33,345	31,608
土地	262,880	262,997
使用権資産(純額)	14,242	13,466
建設仮勘定	8,324	8,908
その他(純額)	7,050	7,022
有形固定資産合計	537,875	533,440
無形固定資産		
のれん	22	—
借地権	3,547	3,547
その他	4,465	4,089
無形固定資産合計	8,035	7,636
投資その他の資産		
投資有価証券	23,387	25,197
長期貸付金	430	410
退職給付に係る資産	24,113	24,402
繰延税金資産	6,772	5,925
その他	15,486	15,787
貸倒引当金	△522	△522
投資その他の資産合計	69,669	71,201
固定資産合計	615,580	612,278
資産合計	757,264	758,145

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,967	6,260
短期借入金	68,961	54,742
1年以内償還社債	10,000	10,000
リース債務	1,521	1,597
未払法人税等	6,885	5,634
契約負債	4,996	5,987
賞与引当金	2,665	2,414
その他の引当金	60	65
資産除去債務	104	24
その他	39,966	30,137
流動負債合計	144,130	116,863
固定負債		
社債	165,000	175,000
長期借入金	171,506	185,532
リース債務	15,935	15,412
再評価に係る繰延税金負債	23,891	23,891
退職給付に係る負債	17,131	16,366
長期預り敷金保証金	28,668	28,854
資産除去債務	5,302	5,356
その他	3,617	3,121
固定負債合計	431,053	453,534
負債合計	575,184	570,397
純資産の部		
株主資本		
資本金	38,803	38,803
資本剰余金	26,981	26,981
利益剰余金	105,044	114,418
自己株式	△1,923	△4,789
株主資本合計	168,905	175,412
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,070	7,309
土地再評価差額金	△1,048	△1,048
為替換算調整勘定	784	△635
退職給付に係る調整累計額	7,274	6,639
その他の包括利益累計額合計	13,080	12,264
非支配株主持分	94	71
純資産合計	182,079	187,748
負債純資産合計	757,264	758,145

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業収益	148,466	144,907
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	92,659	90,485
販売費及び一般管理費	33,944	35,439
営業費合計	126,603	125,925
営業利益	21,862	18,982
営業外収益		
受取利息	132	23
受取配当金	151	174
持分法による投資利益	268	—
為替差益	139	524
受託工事事務費戻入	28	31
雑収入	143	72
営業外収益合計	864	826
営業外費用		
支払利息	1,589	2,005
雑支出	354	448
営業外費用合計	1,944	2,453
経常利益	20,782	17,356
特別利益		
固定資産売却益	18	30
投資有価証券売却益	156	1,388
補助金収入	38	65
受取補償金	450	27
特別利益合計	663	1,510
特別損失		
固定資産売却損	1	0
固定資産除却損	128	142
固定資産圧縮損	52	62
支払補償費	—	512
特別損失合計	182	716
税金等調整前中間純利益	21,263	18,150
法人税、住民税及び事業税	6,468	5,609
法人税等調整額	△456	△237
法人税等合計	6,011	5,371
中間純利益	15,251	12,778
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△1	△0
親会社株主に帰属する中間純利益	15,253	12,779

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	15,251	12,778
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△533	1,238
為替換算調整勘定	712	△1,353
退職給付に係る調整額	△494	△635
持分法適用会社に対する持分相当額	132	△88
その他の包括利益合計	△182	△838
中間包括利益	15,068	11,939
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	15,042	11,962
非支配株主に係る中間包括利益	26	△22

(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

Ⅰ 前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	ホテル業	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 3
営業収益								
外部顧客への 営業収益	21,384	46,234	39,664	30,840	10,342	148,466	—	148,466
セグメント間の 内部営業収益又は 振替高	316	△33	2,159	204	3,014	5,662	△5,662	—
計	21,701	46,200	41,824	31,045	13,357	154,128	△5,662	148,466
セグメント利益 又は損失(△)	2,830	△372	12,824	5,479	1,242	22,004	△141	21,862

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	ホテル業	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 3
営業収益								
外部顧客への 営業収益	22,258	48,281	28,251	35,681	10,434	144,907	—	144,907
セグメント間の 内部営業収益又は 振替高	337	9	2,283	218	3,463	6,312	△6,312	—
計	22,596	48,290	30,534	35,900	13,898	151,220	△6,312	144,907
セグメント利益	3,666	167	6,192	7,893	1,311	19,230	△247	18,982

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。